

静岡市環境大学2018 講座報告 15日目

演題：野外活動における指導者としての心構えとリスクマネジメント

静岡市南アルプスユネスコエコパーク

井川自然の家 指導主事 高柳 淳様

場所：しずもーる沼上3F研修室



講義のポイント

要点1：体験活動におけるリスクマネジメントとは

- リスクのない体験活動はない為、主催者側は万全の安全管理をしてプログラムを提供する義務がある。
- 体験活動の本質を損なわず、リスクの軽減・回避することが、ワクワクする体験や克服した成就感を得るための必要な安全管理の基本となる。
- 安全な自然体験活動を行うためには、周知な計画・準備、指導者のトレーニング、事故防止のための対策、救急体制の確立、補償対策（保険）が不可欠である。

要点2：リスクマネジメントを行う基本的な手順

- リスクの発見・把握→リスクの評価・分析→リスクの対処・処理→確認・フォロー
- 危険の種類①挑戦するときにかかる危険(木登り→落ちる)②明らかに把握しやすい危険(落ちやすい岩)③見落としがちな危険(自然環境の危険等)
- ハインリッヒの法則(1:29:300)と『ヒヤリ・ハット』→1件の大きな事故・災害の裏には、29件の軽微な事故・災害、そして300件のヒヤリ・ハットが存在する。
- どんな小さなことでも報告しあい、分析し、自分のミスを隠さない話しやすい環境を作る。

要点3：安全管理のチェックポイント～リスクの軽減を追求～

- 計画段階でのチェックポイントは、プログラム(活動テーマ)・組織(スタッフ体制)・フィールド(場所)・安全対策である。
- 実施段階でのチェックポイントは、フィールド(気象・危険個所の確認)・参加者(健康状態)・スタッフ(役割分担とコミュニケーション)である。

リスクは0にはならない！対処の後に新たなリスクは生まれる！リスクマネジメントに終わりはない！

受講生の感想

- ★井川自然の家へ行ってみたいと思いました。
- ★具体例を多く用い、理解しやすかった。